

いもう 葦毛通信



ホソバリンドウ

2024年2月19日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 150

1、2023年のナガバノイシモチソウ - 4(最終報告)

4) 各地点での状況

2023年も第1～7地点で白くなって集中する群落が見られました。下左の写真は第1地点から見た自生地全体の写真で西から東を見たところ。薄い黄緑色で白っぽくなっている部分が、ナガバノイシモチソウが集中している群落です。手前の第1地点から奥の第7地点にかけてすべての地点で集中した群落が見られました。

下右の写真は、第2地点の中央部を南西から写した写真です。中央のスプリンクラーの周りに白くなっている群落が見えます。



第1地点 (2023年8月24日)



第2地点 (2023年8月24日)



第3地点 (2023年8月24日)



第4地点 (2023年8月24日)

上左の写真は第3地点の中央部で、西から写したものです。画面には写っていませんが、左側に白くなった群落が帯状にあります。上右の写真は第4地点で、北西から写したものです。手前に白くなった群落があります。

下の写真は第5地点で、左側は北西から、右側は南から写したものです。ナガバノイシモチソウが円形になっており、中心部は水が溜まって浅い池のようになっています。ナガバノイシモチソウは水が溜まったところの周辺に密集した群落を造ります。



第5地点（2023年8月24日）



第5地点（2023年8月24日）



第7地点下部（2023年8月24日）



第7地点上部（2023年8月24日）

上左の写真は第7地点で、白くなった群落が弧状に見えます。中心部分がかつて小さな池があったところで、その周辺部に群落がみられます。下は最も優勢な8月の開花状況の写真です。捕虫葉の先には粘液が玉状になっています。



開花状況（2023年8月24日）



ナガバノ近接（2023年8月24日）

2、2023年度作業報告ー1

2023年度の主な作業は、木の伐採、根の除去と実験区の設定、除草です。木の伐採は指定地のH地点の西側で、ヒメミカキグサが自生しているA地点の南西側になります。根の除去と実験区は湿原中央部を中心に絶滅しそうになっている植物の復活を目指して設定しています。除草は春に植物が発芽しやすいように日照を確保する目的で行っています。

1) H地点西側（木の伐採）

H地点西側は葦毛湿原の天然記念物指定地の西側に接しているところで、指定地外になります。今回作業を行うH地点西側の北東隅は葦毛湿原ではミカワシオガマが最後まで見られたところ（下左写真中央部）です。作業前はイヌツゲ等の灌木が茂り、ウラジロやコシダの大きな群落になっていました。

ミカワシオガマは10年ほど前まで自生を確認していましたが、当時も開花はしていませんでした。イヌツゲ等の木に囲まれ、日照が無くなっていました。今回の作業はミカワシオガマの復活を期待して、木を伐採してコシダやウラジロを除草して日照を確保する作業のみを行いました。地表面を攪乱しないように、根の除去や表土の除去は行っていません。これまでも、葦毛湿原ではミカワシオガマの復活を期待して2か所で作業を行いましたが、ミカワシオガマは復活しませんでした。ミカワシオガマは他の植物に寄生している植物だといわれています。そこで、今回は植物の地表部を刈り取るだけで、地表面にはできる限り手を付けないようにしました。作業は現在も進行中です。



H地点西作業前（2023年9月20日）



伐採作業中（2024年2月14日）

2) L地点（根の山の処理）

L地点の上流部の沢沿いには、2022年度に木の根やササの根をバックホーで除去した際に、運び出せない根を積み上げて仮置きしていました（次頁上左写真）。ここからは様々な植物が出現しましたが、ササも多く発芽しました。このままでは元のササ原に戻ってしまうので、ササの根を除去する作業をしました。ササの根を掘り出し、根についた土は落としてその場に残すようにして、大きな礫が目立ち植物の発芽を阻害しているところに土を撒き戻しました。次頁下右写真は作業後の状況で、植物が無く初期化した状態です。地形的にはやや高い所なので湿地になることはなく、ササが抑えられたことにより、沢沿いの草地として様々な植物が発芽してくると予想しています。

次頁中写真はL地点最上流部に仮置きした木の根の山を処理しているところです。作業はまだ途中で、これからできる限り根の山を低くして、土を撒き戻すつもりです。



L地点（2023年9月20日）



L地点（2024年1月23日）



L地点最上流部：南東から（2023年9月20日）



作業中：北から（2024年1月23日）

3) O地点（イヌノハナヒゲの除去）

O地点は裸地の状態を維持するためにイヌノハナヒゲを根から除去しました。ここは、これまでイヌノハナヒゲの地上部を刈り取り除草するところ、根から除去して裸地化させるところの2か所の実験を行ってきました。裸地化させると地表面に水が現われ、ミミカキグサ等の湿生植物が発芽してきますが、イヌノハナヒゲも出現し増えていくことが分かり、そのままにするとイヌノハナヒゲの群落に遷移することが分かりました。そこで、画面中央部を常に裸地として維持していくために、イヌノハナヒゲを根から除去するようにしました。



O地点（2023年9月20日）



O地点（2024年1月29日）